

部 長	伊 藤 純 子
研究主任	井 手 知 里
部 員 数	27名

1 研究主題

自ら学ぶ力と豊かな人間性を育てる学校図書館づくり
～本は信頼できるともだち～

2 はじめに

文部科学省が提唱している「学校図書館ガイドライン」によると、「学校図書館は、児童生徒の読書活動や児童生徒への読書指導の場である「読書センター」としての機能と、児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」としての機能とともに、児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」としての機能を有している」とある。

令和2年度の秋に一人一台のタブレットが導入され、子どもたちの本離れがますます懸念される中、「学習センター」や「情報センター」としても図書館を活用していくために、授業の中で図書館や本をどのように利用できるかを中心に、今年度も研究を進めていくことにした。さらに、調べたものを子どもたち自身が発信できるようにしたり、学校図書館司書の方との連携を図ったりしながら、図書館の利用について考えていきたい。

3 研究経過

令和3年度に開催される県大会での発表（中学校部会）に向けて、小委員会や中学校部会を開き、準備を進めた。

4月 研究組織・研究テーマの決定

7月 授業実践内容の決定

1月 授業実践報告会（開催予定）

4 研究の概要

(1) 小委員会

今年度と来年度の活動の方向性を話し合い、中学校部会を開催することを決定した。

(2) 中学校部会

授業実践の分担や授業内容等を決定した。

1月に授業実践報告会を開催し、次年度の発表内容について話し合う予定である。

5 今後の課題

これまでも、本研究会では、「自ら学ぶ力と豊かな人間性を育てる学校図書館づくり～本は信頼できるともだち～」の研究主題の下、各学校の授業や委員会活動の中で様々な取組を行ってきた。しかし今年度は、部員全体で集まる機会がもてず、一部の中学校の先生方に授業実践を行っていただくにとどまった。昨年度の秋から始まった読書ノートの活用も、十分にできているとは言えないのが現状である。

今後は、子どもたちが図書館や本がもつ魅力をより実感でき、進んで本を手にとれるような環境づくりを引き続き進めるとともに、図書館での調べ学習をタブレットの活用と並行して行う環境づくりも意識して研究に取り組んでいきたい。そのためにも、学校間の情報交換を継続し、小牧市立図書館や学校図書館司書、図書ボランティアの方々との連携を充実させていきたい。